

会議録

会議の名称	第3回 西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	令和5年2月20日（月曜日）午後3時から5時まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	委員：飯島享委員 小野寺崇会長 木崎英司委員 桐木美里委員 指田泰弘委員 保谷隆司委員 松川紀代美委員 村山浩宜委員 事務局：後藤幸男産業振興課長 山田公一産業振興課長補佐 遠藤集徳産業振興課主事 コンサルタント：梵まちづくり研究所 黒丸結奈 栗原唯香
議題	計画策定に向けた調査について ①事業者・消費者アンケートの集計・分析について ②事業者アンケート集計報告及び評価について（施策評価部分） ③ヒアリング調査経過報告について ④施策体系について
会議資料の名称	次第 第2回西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会 会議録（案） 資料1 事業者・消費者アンケートの集計・分析について 資料2 西東京市事業者アンケート（単純集計 問7抜粋） 資料3 施策に対する事業者による評価効果（事業者アンケートの施策別満足度・重要度） 資料4 西東京市産業振興マスタープラン後期計画の実行プログラム年次計画の進捗評価 資料5 ヒアリング調査経過報告 資料6 西東京市の産業振興における現状と課題の整理（たたき台） 参考 事業者アンケート調査票
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会 ○会長： 定足数に達しているため、第3回西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会を開会する。</p> <p>《傍聴者確認 傍聴者2名の出席を許可》</p> <p>2 委嘱状交付 《産業振興課長より交付》 《副会長の決定》</p> <p>3 第2回会議録（案）の承認 《第2回会議録（案）を承認》</p> <p>4 議題</p> <p><u>①事業者・消費者アンケートの集計・分析について</u></p>	

○事務局：

《資料1に沿って説明》

○会長：

委員の意見を反映してWebアンケートを実施したところ、一定の効果があったと感じた。ただ今の説明内容について、各委員の意見を順番に求める。

○委員：

アンケートの回収率はもう少し高いと想定されていたが、600～700程度あれば一定の信頼性はある。今後どのような施策を立てるかということについては、重要度と満足度についてのクロス集計があれば十分だと考えている。アンケートの結果は中心化傾向にあるため、あまりあてにならない。むしろ、「大変満足」「大変不満」の理由を深く掘り下げる必要がある。

○委員：

今後計画を作る上で、市として改善すべき項目の洗い出しができる内容になっていれば良い。課題の洗い出しと目標立てにつながるものであり、アンケートの内容や集計結果について特に問題はない。

○委員：

アンケートの集計はどのように行うのか。手作業で行うのか。クロス分析にも手間はかからないのか。

○事務局：

集計はソフトを用いて行い、結果の数値をグラフ化・分析する。クロス分析の項目は仮定のものであり、項目についてアドバイス等があればぜひ伺いたい。

○委員：

集計して出てきた数値の中から特異なものをピックアップするのか。

○事務局：

クロス集計に関してはある程度狙いを定めているが、特徴的な結果がほかに出れば適宜掲載する。

○委員：

事業者アンケート回答の4分の1ほどをWeb回答が占めている。手間だったとは思いますが、Webでも実施できて良かった。

○委員：

事業承継について悩んでいる事業者は多いため、アンケート結果で、後継者がいる場合は親族なのか従業員なのか、いない場合は第三者も選択肢に入っているのか、等がわかると良い。

○委員：

事業者アンケート問7の満足度・重要度は、経営者の年齢もわかった方が市にとっては良いのではないか。

○会長：

事業者アンケートの問14は、業種別に課題を示すと参考になるのではないかと。また、消費者アンケートの問10について、商店街の利用者の家族構成がわかると資料としておもしろいのではないかと。

②事業者アンケート集計報告及び評価について（施策評価部分）

○事務局：

《資料2～4に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について、各委員の意見を順番に求める。

○委員：

満足度・重要度スコアの分布図は合理性がある。資料2の施策4～8の結果からは、元気がないためにぎわいを作ってほしいという印象を受ける。資料4の具体的取組みの評価が低い原因は、実施しているが知られていないということと、実施していて中身に不足があるということの2つが考えられる。今の施策が効果的であっても知られていないのか、その逆か、慎重に精査する必要がある。

○委員：

前回、西東京市は観光のイメージがなく市民や事業者の関心が薄いという意見が出ており、今回の結果だけではなく西東京市ブランドも含めて考える必要がある。市は西東京市ブランドを強く推しているが、市内横断的な連携ができていないのではないかと。産業振興がほかの事業とどうリンクしていくのか、ここだけでは議論が及ばないところもある。また、現在策定中の総合計画が産業振興にどれだけウエイトを置くかで変わってくるため、市全体でどう位置付けているのかリンクさせたい。

○委員：

商店街関連の施策の満足度が非常に低い。商店会の会長が一生懸命動いていたとしても、商店街の組織として動いて結果を出さないと達成感を得られない。組織全体が動くところまでサポートできていないため、支援の仕方を考える必要がある。

○委員：

アンケートの回答者は全員商店会に所属しているわけではないため、商店街関連の施策についてはよくわからないのではないかと。

○事務局：

商店会の加盟状況と施策の満足度をクロス集計した方が、実態がわかるかもしれない。

○委員：

事業者の中には商店会に所属しなくても良いという考えの人もある。商店会に加盟している人としていない人の満足度がわかると良い。

○委員：

これまでの情報発信は一店逸品事業を紙媒体で展開してきたが、事業者はプロモーションビデオの宣伝効果に期待している。デジタルを活用したプロモーションは、不特定多数の人々に知ってもらえるため今後重要になる。

○委員：

事業者アンケートの施策4、5の結果は厳しいと感じた。事業者がどのような施策を求めているかが見えるのではないか。

資料4の施策8は満足度が低く重要度が高い。駅前情報発信プロジェクトの一環で2022年の売上ベスト5を出したところ、西東京市産のものが上位にランクインしていた。こうしたことを盛り込んだ施策を作れると、事業者にとって非常に良いものになると感じる。

○副会長：

設問に観光が含まれていて驚いた。田無神社や総持寺はあるが、観光資源としてどこまで有効なのかわからない。そのほかに観光の役に立つものがあるのか、と思ってしまう。

○会長：

委員の意見を反映させながら、新たな計画では見直すところは見直し、力を入れるところには重点的に取り組んでいきたい。

③ヒアリング調査経過報告について

○事務局：

《資料5に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について、各委員の意見を順番に求める。

○委員：

商店会加入のメリットが欲しいということは、ヒアリングで聞かずともわかることである。本来であれば、市としてやりたいこと・やるべきことについてヒアリングを行って効果を確認し、施策を進めるやり方の方が実効性は高い。このヒアリングからは、ヒントは得られるが答えにはならないため、我々で施策をしっかりと考えていく必要がある。

○委員：

ヒアリングは今後施策を作る参考になる。多摩六都科学館に産業関連の専任スタッフを置くというアイデアは広げていけるのではないかと感じた。アウトリーチとして、多摩六都科学館が地域へ出て課題解決していくことにつながると良い。

商店街は元気のあるところ・ないところが様々であり難しいが、商店街や地域同士の連携でイベントなどを行える仕組みを検討できると良い。

○委員：

このヒアリング結果をどう施策に落とし込むかが重要である。商店会加入のメリット

を伝える資料を作成して勧誘に役立てるといふ提案は以前からあるが、実行する商店会は作り方などがわからないため、サポートの仕方を考える必要がある。

この結果を見て、経済的な問題を抱えている学生が多いことを知って驚いた。

○委員：

立場によって抱える悩みが異なることがわかったが、全てに注力することは難しいため、市としてどこに注力して取り組むのか知りたい。

西東京市は子どもの数が増えており、小学校のクラス数は自身が通っていたころより増えている。西東京市には人自体は多くいるため、地域を活かした産業振興をしていけると良い。

○委員：

商工会は国や都の支援策の窓口であり、今後も様々な支援策に速やかに対応する必要性があると実感した。

○委員：

コロナを契機に、どの企業もトップラインを上げづらくなった。この状況の中で、「人」もキーワードになってくる。これまで事業者単位の横のつながりを持ちづらく、無くて大丈夫ではあったが、今後は連携作りのきっかけやハブになる施策ができると良い。

○委員：

東大農場に農協を作るための初期の話し合いの場で、道の駅を作れないかという提案があったが、どこにどのように話を通せば良いのかわからなかった。農協は4市にまたがる組織ではあるが、農協と西東京市の商工会が話し合う機会があると良かった。アイデアを出してもそれを活かす場がないため、横の連携は重要なことである。

○会長：

委員からは連携についての意見が多く出ていた。また、ヒアリング結果を見るとキャッシュレス決済についての意見が目立ってきているが、デジタル推進だけではなくアナログなフォローも必要であると感じた。今後新たな施策を検討する際、委員の意見を参考にしたい。

④施策体系について

○事務局：

《資料6に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や感想を求める。

○副会長：

農地貸借の法律が変わったことで農地の貸し借りが推進されており、西東京市は農地のデータベース化を行っている。住宅と農地の景観のマッチングが実感できると、住民の満足度向上にもつながる。

今回ハンサム・ママについて初めて知ったが、自身が組織する農業ボランティアグル

ープのメンバーは西東京市にワイナリーを建設しようとしており、自身も多摩地区では唯一の味噌加工業を始めた。このように農家も様々なアイデアを持っているため、商工会と連携していきたい。農地の管理をきちんと行うことで地域に貢献できることもあると感じた。

4 その他

○事務局：

《次回委員会は5月を予定》